

近隣町会（新井西町会・新井南町会）に対する説明会実施結果
 （旧中野刑務所正門取扱い方針案・平和の森小学校新校舎整備スケジュール）

1 開催日時及び会場、参加人数

日 時	会 場	参加人数
1 1月29日（日） 13時25分～15時5分	区役所会議室	8人

2 説明会で寄せられた主な質問・意見、区の考え方について

No.	主な質問・意見	区の考え方
①	地元では、平和の森小学校新校舎の早期開校を望んでいるが、正門を曳家することにより、新校舎整備が遅れることに対し、平和の森小学校に通っている児童の保護者、また教職員の声は一体どうなっているのか。	去る11月20日、平和の森小学校の保護者を対象に、正門の取扱い方針（案）の説明会を実施した。主だった意見は、狭小な現在の教育環境に対する改善と平和の森小学校新校舎の早期開設であった。
②	正門を解体して更地にすれば、学校の建設スケジュールは早まるのか。	正門を解体にした場合、曳家の関連工事がなくなるため、新校舎の整備スケジュールはその分短縮される。
③	正門の曳家の概算経費は約5億円とのことだが、公開後の経費はどれぐらいかかるのか。	監視カメラや敷地の清掃費などで、年間約100万円のランニングコストを見込んでいる。
④	学校用地として財務省から敷地を売却されながら、その場所に正門という文化財が移築されることに、何らかのペナルティはないか。	ペナルティはないと聞いている。国の審議会には学校用地で申請しているので、取得前に用途を変更することはないが、売買契約後、区の責任下において調整をとっていくことになる。
⑤	正門の曳家先の敷地の価格はいくらか。解体すれば、その分の経費がかからないのではないか。	予算上は約13億8千万円である。敷地全体を取得するため、解体の有無で、経費に増減は生じない。
⑥	国が地元自治体に払い下げをする場合は半額だということがあると思うが、そうした話は国からはないのか。	現在は適正価格で買い取るようになっており、そうした値下げはない。

No.	主な質問・意見	区の考え方
⑦	正門のそばで暮らし、正門の前を通過して通学していた者にとって、昭和58年の刑務所の取壊しは辛い経験だった。しかし、それにも増して、子どもたちが新しい校舎に通えない状況の方が辛い。一刻も早く新校舎を整備すること、1平米でも多く学校の敷地にすることを要望する。	地元にとって正門は思い出の残る建物でありながらも、子どもたちの教育環境を優先していただき、大変有り難いと感じる。ただ、正門には文化財として価値があるという答申が出た中、教育環境との両立を図る必要があると考えている。平和の森小学校の現状を鑑み、平和の森公園の多目的広場を来年度以降、児童のために一部確保する予定である。また、お示しをした正門のスケジュールについては、可能な限り工期の短縮に努め、平和の森小学校新校舎の早期開設につなげていく。
⑧	文化財として門を残す場合、国や都の補助はあるのか。	まずは中野区の文化財に指定してから、都、そして国の指定と段階を踏むことになる。仮に都の指定を得られることになれば、メンテナンス費用などに補助金が入ってくることになる。
⑨	刑務所には囚人と結びついた負のイメージがある。すっかり壊してしまい、子どもたちに広い学び舎を提供してほしい。旧野方小学校の卒業生に聞いても、正門はいらぬという話を耳にする。こうした声も考慮していただきたい。	2018年度の区民と区長のタウンミーティングでも同様の意見をいただいた。しかし、正門には文化財として価値があるという答申が出たことをふまえ、また区民にとっても財産にもなることから、平和の森小学校新校舎における教育環境との両立を図る必要があると考えている。
⑩	この正門を残すのは、誰かに見せることが目的なのか。その場合、どのような形で公開するのか。	文化財として活用するにあたっては、内外に広く知ってもらう方策を今後検討していく。
⑪	1年遅れることで、新校舎に入れぬ子どもたちがたくさん出てくる。正門を取り壊し、残った煉瓦を新しい校舎に再利用し、子どもたちに歴史を学ばせるという方法もある。曳家の経費は今後膨れ上がり、議会に否決されれば、学校建設がまた遅れる可能性がある。曳家をする必要性はない。	部材で残すという考え方もあると思うが、文化財は一度壊すと価値がなくなるので、なかなか難しいと思う。古いものを大事にすることも子どもたちには教えていきたい。